

# きずな

2011年 8月25日

NO 850

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (TEL 62-6200)

平成23年4月1日施行した「議会基本条例」に基づいて、市民が議員に直接意見・要望を出し、意見交換を行う目的で「市民の声を聴く会」が開催されました。8月18日の高屋地区を皮切りに24日までに、市内13箇所で開催されました。

森本市議は、4班に所属し、21日に大江地区、23日に荏原地区、24日に芳井地区の「市民の声を聴く会」に出席しました。

大江地区の1地区だけですが「市民の声を聴く会」の様子をできるだけ詳しくお知らせいたします。

## 市民の声を聴く会

# 大江地区では、質問や要望がたくさん出される

21日(日)午後7時から4班としての最初の会である大江地区の井原市議会「市民の声を聴く会」が開催されました。

参加者は地元の方が15名と浅口市議(傍聴)が2名でした。

先ず井口班長、寺岡公民館長のあいさつがあり、続いて佐藤議員が、「議会の仕組みと活動状況」「井原市議会基本条例」「井原市議会議員政治倫理条例」「平成23年6月定例会の審議内容」の4つを一気に報告しました。

司会の貫戸議員が報告に対するご質問・ご意見をとの進行で、6名から質問や意見が出されました。この間50分。

続いて議会・議員へのご意見・ご要望を聞く後半に移りました。

この中では、5名からのご意見・ご要望が出されました。「市民の声を聴く会」の開催案内を回覧で廻し、ご意見・ご要望などを提出してもらっていた5件が、一括伊達連合自治会長から代理発言もありました。様々な声が出されましたが、行政へのものと議会へのものが様々出ました。

全体的には、議会での打ち合わせどおり、その場で答えられる声には答え、そうでないものは持ち帰って検討し対処するということにしました。

最後に副班長の森本市議のお礼のあいさつと伊達会長のあいさつがあり、8時35分に会を閉じました。4つの報告に対する質問や、行政、議会対するご意見・ご要望はつぎのようなものでした。



大江地区の  
市民の声を聴く会

## 持ち帰って議会で検討・対応すると答えたご意見・ご要望

◆弱者の立場に立った政治を行っていただきたい。◆弱者が死亡したとき、5万円～10万円ほど家族が負担し、あとは市の方で葬式をやっていただきたい。できれば家族の負担無しで市が葬式をしていただきたい。◆市の共同墓地を井原、芳井、美星に作っていただきたい。◆福祉手当がカットされたが該当者は何人か。0.4%がどのくらいになるのか。市としてカットせずに出していただきたいがどうか。◆市は道路整備で計画路線、要望路線といて、要望路線が後回しになっている。市民の要望を第一に考えるべきではないか。今でも計画路線を優先するという考えが生きているのか◆公共下水道を計画的に整備していただきたい◆震災で耐震について感心が高まっている。地区公民館などの建設で50%の補助だけでなく、耐震構造にかかる費用などを考慮し、補助の割合を引き上げては。◆大江地区は水はげが悪い。最近のゲリラ豪雨等で浸水被害が出ている。源代川と高屋川の合流地点を早く改善していただきたい。◆地域の新聞等に井原の記事があまり載らない。市や議会がしっかり情報提供してもらって載るようにしていただきたい。◆新川地内の消防機庫から国道313まで早期に整備していただきたい。

## 会場で議員が答えた質問やご意見・ご要望

◆産業振興については、どの委員会になるのか。◆産業振興は建設水道ということだが、名前と産業振興という中身とが一致しない気がする。◆議会基本条例で執行部の反問権を認めることになった。6月議会ではどんな影響・変化が出てきたか。◆市民に開かれた議会とっているが、委員会も井原放送の生中継をお考えですか。◆議員の定数について議会で検討しているか。◆基金のお金はどこから出するのか。◆基金は一度で使ってしまうのか。◆財政改革の中に、議員定数削減も入っているのか。◆議員報酬の県内でのランクはどの辺か。議員定数を削減し、議員報酬を上げてはどうか。◆いま、議員定数削減の話が出たが、議員定数削減については、民主主義をどう発展させるかという観点で、慎重に行っていただきたい。◆地方の時代と言っても市独自の事業は少ないのではないかとと思うので、議会が執行部にしっかり提案していただきたい。◆農業問題は今大変な状況だ。この政策も提言していただきたい。◆県議会では日の丸を掲げているが、井原市議会では掲げないのか。◆市長への提案箱と議会への提案箱はどう違うのか。◆女性が検診を受けやすいようにしていただきたい。◆いま井原市民病院の状況(診療体制)はどうなっているか。



## 小田川での鮎のつかみ捕りに参加者は大はしゃぎ

20日(日)午前10時から井原市井原町内の小田川の桜橋上流で「鮎のつかみ捕り」が行われ、市内外から100人あまりの親子連れが集まり、つかみ捕りに挑戦していました。

この催しは「(NPO法人)はっぴいひろばとまとさん家(ち)」の「子どもサロンとまとさん家」が計画し、募集していたものです。あいにく雨になりましたが、10時前に主催者からあいさつと注意事項などが話され、一斉に川に入りました。

この日は、前もって300匹の鮎と、地元の漁業組合の数名が、当日、小田川で投網を打って捕まえた50~60cmもある5匹の鯉も放流されていました。鮎を捕まえようと「ワーーいるいる、いま足に当たった」「キャーぬるぬるするけど捕まえた」など大きな声を上げながら捕まえた鮎を、持参の袋へ入れていました。また、大きな鯉を捕まえ逃がさないように両手でしっかり掴んで岸に持ってくる子どももいました。捕まえた鮎は、串刺しの仕方を主催者のスタッフに教えてもらい、自分で串刺しし、炭火の上に置き、こんがり焼いて「おいしい、おいしい」と言いながら満足顔で食べていました。

近くでは「ソーメン流し」もやられており、竹を割って作った樋を勢い良く流れてくるソーメンを上手にすくい上げ、主催者作成の竹のおわんでおいしそうに食べていました。約2時間ほどでしたが、参加者はこの夏休みの大変いい思い出ができたものと思います。

主催者の様々な準備と魚を用意された漁協の人など、関係者は非常に大変だったろうと思いますが、来年も是非計画してあげてください。上の写真は、この行事の数場面です。